

3章 総合問題3

問題

【1】

ポイント

本文の冒頭にある, In industrialized societies like ours ... as well as our work lives. が Topic Sentence である。以下仕事を持つ夫婦が他から受ける影響について述べている。筆者の意図は最終段階の But I hope ...にある。

解答

- (1) the money earned and the position held
 (2) 「全訳」の下線部㉑, ㉒を参照。
 (3) a (4) other jobs (5) and prestige (6) b, c

解説

(1) the normal *satisfactions* の *satisfactions* は「満足を与えてくれるもの」である。抽象名詞が普通名詞に転用されている。(本質的にはそうでないはずだが) normal (普通の) となってしまった「満足を与えてくれるもの」については下線部㉑を含む文の前文で言及されている。

○ earned と held はそれぞれ前の名詞を修飾している。

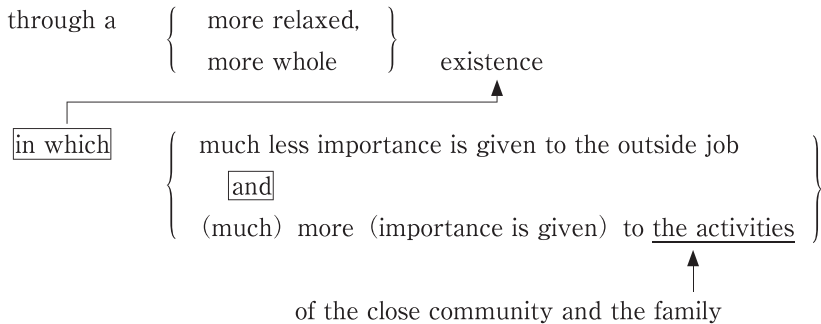
(2) ㉑ they = these = the money earned and the position held

- meager [miːjər] = lacking in quantity or quality
- substitute for 「～の代用品」
- the way = as

ここでは, as a craftworker does と書き換えれば同じ意味になる。

- does = creates something useful and beautiful
- craftworker 「工芸作家；職人」

㉒ the liberation for both sexes



○ liberation 「解放」

< liberate = release someone from a situation which limits freedom of thought or behavior ; free someone from social conventions, especially those concerned

with accepted sexual rules

- both sexes = men and women
- whole = in an unbroken or undamaged state; healthy
- existence = C a way of living
- close [klóus] = very affectionate

- (3) ここでは rivalry と the warm glow が対比されていることに気がつけば容易。
 金と地位のことばかり考えているとそこには相手を蹴落とそうとする個人的な意識が強く働いてくる。それが働く者同士の間や隣人との間、夫婦の間にまで忍び込んでくる。一方、家族や地域社会のために協力して働く場合には、金とか地位のことは考えない。そこから生ずるのは the warm glow (ほのほのとした喜び) である。これは gratification である。本来労働の喜びというのはこのようなものであるべきなのに、「その代わりに」対抗意識が生まれてくるというのである。

○ *in place of* the warm glow …となる。

○ *in place of* = instead of 「～の代わりに」

- (4) 直前に some jobs とあるから、others は other *jobs* である。some は some あるいは others などと対照的に用いる。

- (5) 「女性がこのような平等な権利を持つべきであるのは確かである。」

this kind of equality に目をつける。「平等」に触れているのは第3段落で、recognize their right to equality with men through jobs with equal pay and prestige が「このような平等の権利」の内容。次の段落が But で始まっていることもヒントになる。Indeed ～, but …などの表現を連想すれば、Certainly ～, but …というつながりに気づくはずである。

以下を公式化しておこう。すべて「なるほど…だが、しかし～」の意である。

It is true	}	{	but,
No doubt			
Indeed			
To be sure			
Certainly			
I admit			
Yes			

- (6) a 「最近になってやっと私たちは金と地位だけから満足を得るようになった。」

It was not until [till] ～ that …の構文である。本文の第1段落で、Then the satisfaction has to come from the money earned and the position held. とあって、次に This has been true for so long now that … と続いている。This は前の文の内容を指している。「このことがずっと前から本当であったから…」となるから、「最近になってやっと」ではないことがわかる。一致しない。

- b 「私たちの家庭生活は企業の要求に大いに影響を受けてきた。」

これは本文の Topic Sentence との関連である。

the demands of industry have drastically artificialized and fragmented our home

lives as well as our work lives とあるから、会社での生活は言うまでもなく、家庭生活にも猛烈な影響を与えたことがわかる。一致する。

c 「職人には有用で素晴らしいものを創り出す喜びがある。」

本文の第1段落参照。企業で働く人も金や地位に満足するのではなくて、職人がするように有用で素晴らしい物を創り出す喜びがなくてはいけないのに、そうではなくて金と地位がそのみすぼらしい代用品になっている。

the way a craftworker *does* の *does* は代動詞で *creates something useful and beautiful* である。一致する。

d 「筆者は外での仕事を重視しなくてはいけないと考えている。」

think much of ~ は「~を重んずる」。最後の段落に、I hope that ... much less importance is given to the outside job... とある。筆者はむしろ the activities of the close community and the family の方を重視しようと提唱している。一致しない。

e 「妻が外に出て働くことは妻とその夫との間に対抗意識を生む。」対抗意識が生まれるのは、金と地位のことばかりを考える (The focus on money and position) からである。一致しない。

全訳

我々の社会のような工業化社会においては、企業の要求のために、労働生活と同様に、家庭生活までもが徹底的に不自然なものとなり、またばらばらになってしまっている。父や母の中には何マイルも離れたところへ仕事に出かけて行く者が多い。それは本質的に何の満足も与えてはくれない退屈で反復的で非人間的な仕事で成り立っているかもしれない。したがって、満足感は稼いだ金と手に入れた地位から得なくてはならない。昔からこのとおりであったから私たちはこれが普通の満足の仕方であると思い込んでいる。ところが、実際には、①それは、職人が創り出すような有用で見事なものを創り出す喜びとは異なる、範囲が限られた、みすぼらしい代用品なのだ。金と地位ばかり考えると、家族や地域社会のために協力して働くことから生じる暖かな喜びの代わりに、働く人々の間に、隣人の間に、時として働いている夫婦の間にでさえ、対抗意識が強まりがちになる。

仕事によっては単調であったり、競争心をあおるので外に出て働く夫婦には負担になる。

私たちの社会では、女性が望みを達成する主要な方法は、同等の賃金と名声のある仕事を与えることによって男性との平等の権利を認めることであるようだ。(女性はこのような平等の権利を持つべきであるというのは確かなことだ。)

しかし、将来の他にとるべき目的として、②外での仕事はこれまでよりはずっと重視する度合いを下げ、身近な地域社会と家庭活動をより重視する、もっと気楽で、もっと健全な生活によって男性・女性双方を解放することを男性と女性が考えるようになることも私の望みである。

注

ℓ. 1 ◇ like ours = like our society

◇ drastically = having a strong or far-reaching effect ; radical and extreme

ℓ. 2 ◇ artificialize 「~を人工的なものにする；不自然なものにする」

○ artificial の動詞形であることから意味の判断ができる。

- ◇ fragment = break into small parts
- ℓ. 3 ◇ go off to a job 「仕事に向かって離れる → 仕事に出かける」
- ◇ miles away (副詞句) 「何マイルも離れたところへ」 (= miles 分だけ away)
- ※ miles は「差」を表す副詞相当語句。
- ◇ It は the job を指す。
- ◇ consist of = be made up of
- ◇ repetitive [rɪpɪtətɪv] = containing or characterized by repetition
- ◇ impersonal = (usually disapproving) lacking friendly human feelings or atmosphere ; making you feel unimportant
- ℓ. 4 ◇ gratification = a source of pleasure
- ◇ in itself = as such (それ自体) ; basically, intrinsically (本質的に)
- ◇ come = occur ; happen
- ◇ the money earned
- ↑
- the position held
- ↑
- 分詞 1 語だから後置修飾しないというのは正しくなく、基本的には、「一時的な状態は後置修飾」「恒久的な分類の特徴は前位」である。
- cf. a *working* man 「労働者」
- a *used* book 「古本」
- a man *shot* 「撃たれた男」
- ℓ. 5 ◇ so ~ that … 構文
- ◇ assume 「(根拠もないのに) 思い込む」
- ℓ. 6 ◇ actually 「ところが実際は」《文修飾》
- ℓ. 8 ◇ foster = promote the development of
- ◇ rivalry = a state in which two people, companies, etc. are competing for the same thing 「対抗 (意識)」
- ◇ at times = sometimes
- ℓ. 9 ◇ warm = showing affection
- ◇ glow = a strong feeling of pleasure or well-being
- ℓ. 10 ◇ cooperatively = in a cooperative way
- < cooperative [kəʊpəreɪtɪv] = involving cooperation or working together
- ◇ benefit = an advantage gained from something
- ℓ. 11 ◇ monotony [məˈnɔːtəni] = the quality of being monotonous ; boring lack of variety
- ◇ competitiveness 「競争心」
- ◇ impose A on B 「A に B を押し付ける」
- ◇ strain = a state of tension or exhaustion resulting from a severe demand
- ℓ. 12 ◇ parents who work outside … ℓ. 9 の working husbands and wives の言い換えであり、「両親」では断じてない。

- ℓ. 13 ◇ It may seem that …
 ○ it … 非人称の it。
 ◇ gain fulfillment = gain satisfaction by fully achieving *one's* potential
- ℓ. 14 ◇ their right to 「～の権利」
 ◇ equality [ɪkwəːləti] = the state of being equal
 ○ equality with 「～と平等であること」
 ◇ through = by means of
- ℓ. 15 ◇ prestige [prestɪʒ] = widespread respect and admiration attracted through a perception of high achievements or quality
- ℓ. 16 ◇ will also be imagining … 《未来進行形》
 ○ 「成り行きでそうなると思われる場合」に用いる。
 ○ 意志は含まない。
 ◇ as 「～として」
 ◇ alternative = (of one or more things) available as another possibility
 ◇ aim = a purpose or intention

[2]

全訳

言語は人間社会に不可欠な道具である。①言語を手段として、個人はお互いを理解し合い、1つの共同体として、共に機能することが可能になるのである。もっとはっきり言えば、言語がなければ、いかなる社会組織であれ形成し、長期に渡り維持するのは不可能であろう。コミュニケーションがなければ、現代社会の複雑な組織の存在はまったくにして不可能なものになることは確かである。

②したがって、人間社会が有効な存在であるかは、言語を明晰に、正確に、効率的に用い、理解するかに、主にかかっているのである。今日では、人間の声は——ラジオ、海底電信、テレビで——大陸や大洋を越えて容易に届くので、発言の内容は何よりも重要なものとなっている。

しかし、言語は、呼吸や食事のような現象とは異なり、生物学的に人間に備わっているものではなく、本能として存在するものでもない。赤ん坊は言語の力とその使い方を知るようにならなければならないが、意識的な努力と訓練によって言語を習得しなければならない。子供は、音や単語を1つずつ習得して、——自分の欲するものを人に知らせるために、自分の感情や考えを表現するために、他人が自分に何を知らせたいか何をしてもらいたいかを理解するために——この素晴らしい表現手段を身につけるのである。③そして大人になるにつれて、言語能力を絶えず拡張し、よりよいものにして、最も抽象的で高級なレベルで思考し、伝達する能力を養うのだ。このようにして、言語は社会的慣習として、単純な動物的存在のレベルを超えて進歩していく人間の、最も重要な特質の1つとなるのである。

【3】

ポイント

本問は科学的な内容の日本語の英訳である。情緒性の強い、したがってそれだけ日本語独特の表現が多い日本語よりずっと英訳しやすいだろう。文の意味は明快だが、構造をまず分析してから英文の組み立てを考えるようにしたい。

解答

The invention of writing was the most revolutionary of all the inventions that human beings have ever made, for with one great blow it cut the chains which had tied an individual and his limited culture to a finite region of space and to a restricted portion of time. All the other animals carry with them all (of) the knowledge and experience that they have acquired for themselves when they die. We can preserve our brains' richest fruits for our descendants to use. The extraordinary advances which have taken place in human society over the last ten thousand years have been due to this capacity to record and preserve information.

別解

All animals except humans take with them all their knowledge and experience when they die. Human beings can store the richest products of their brainpower so that their descendants can make use of them. This capacity to record and preserve information has made it possible for humans to achieve extremely remarkable progress in their society during the last ten thousand years.

解説

基本的には、日本語の主語、動詞に従って英文のS、Vを決めればよい。第1文は「人間以外のすべての動物」が主語となるが、文脈から「人間以外の」は表現せずに、all the other animals だけでも十分である。

第2文は考えるまでもなく、「人間」が主語となる。

第3文は、いくつかの文の組み立て方が可能である。

方法1：日本語通り「過去1万年にわたって、人間社会で起こったとてつもなく大きな進歩」を主語にして be due to ~ という形で「~によるものである」を続ける。

方法2：「~する能力」を主語にして「~する能力が…することを可能にした」という形で訳す。

方法3：「~する能力のおかげで」という‘理由’を表す副詞句にし、「人間は…な進歩を達成した」という文につなげて訳すこともできる。

- 「人間」 human beings
- 「人間以外のすべての動物」 all the other animals ; all animals except humans
- 「自らが獲得した知識と経験のすべて」 all the knowledge and experience that they have acquired (for themselves) というのが最も日本語に忠実な英訳である。
- 「~を持ち去る」 carry [take] ~ with them
- 「子孫が使えるように」「子孫」は descendants や offspring である。offspring は、「子孫」の意味では集合名詞で単複同形。「使う」は use や make use of である。「…できるよう

に」は so that their descendants can [may] use ~ というように節で表してもよいし、for their descendants to use ~ のように不定詞に意味上の主語を表す for ~ を付けた形で表してもよい。

- 「頭脳の最も豊かな実り」この「実り」は fruits や products を使う。全体では their brains' richest fruits [products] ; the richest fruits [products] of their brainpower のようにする。
- 「保存する」preserve ; conserve ; store
- 「とてつもなく大きな進歩」「進歩」は advances や progress とする。「大きな」は great ; remarkable ; outstanding ; noticeable などさまざまな形容詞で表すことができる。「とてつもなく」はこれに extremely といった副詞を付ければよい。あるいは「とてつもなく大きな」を extraordinary のような1語で表してもよい。
- 「過去1万年にわたって」over the last ten thousand years。over に代えて in や during を使ってもよいだろう。
- 「人間社会で起こった」は「過去1万年にわたって」を含めた関係詞節にして「大きな進歩」を修飾する形にする。the ~ advances which have taken place [happened] in human society over the last ~ のようになる。「人間社会で起こった」は、「人間が達成した」と考えて、the ~ advances that humans have achieved (in their society) over the last ~ としてもよいだろう。
- 「情報を記録し、そして保存する能力」「情報」は information, 「…する能力」は the capacity [ability] to … ; the faculty of …ing, 「～を記録する」は record ~ である。「～を保存する」は preserve ~ など。
- 「…は～によるものである」方法1なら、… is due to ~ という訳し方に、方法2のように考えれば、~ has made it possible for humans to … ; ~ has enabled humans to … のようになる。方法3なら、because of ~ , humans have achieved … という訳し方ができる。

【4】

ポイント

今回の「日本人が国内で外国人に日本語で話すべきか、話すべきでないか」という問題は、実は非常にデリケートな問題だ。そしてこれに対して2つの相反する議論がある。

1つは、日本人が英語や欧米文化に追随する姿勢を警告するものである。そして、この姿勢を「英語信仰」と呼び、このような風潮の中で、日本人が日本的なものを失っていくことを危惧するものだ。日本人は日本語を重要視するべきで、日本国内での外国人とのコミュニケーションでは英語ではなく、日本語を使うのがよいという主張である。

これに相反するもう1つの考え方は、国際社会の中で、日本の国益を守り、日本の可能性を切り開いていくためには、一般市民が国際言語である英語を身に付けるべきだというもの。つまり、日本国内で第二公用語として英語を使用する習慣を付けることを重要だとする主張である。

解答例

I agree with this idea. First, if we go to an English-speaking country, we naturally speak English. Therefore, if foreigners come to Japan, they should speak Japanese. I think this is a fair way of thinking. Second, Japanese people need to be more proud of our native language and be able to communicate more with foreigners in Japanese. (53 語)

別解

I disagree with this idea. If foreigners speak to us in English, for instance, they probably don't know Japanese. We should be kind enough to speak to them in English. Grass-roots communication will be very important in Japan from now on. Therefore, it is better for us to try to speak their languages in Japan. (50 語)

解説

今回賛否が問われている意見には、「ポイント」で挙げたような背景が存在しているということを知っておくとよい。ただ、この問題は提示された意見について「論じなさい」という問い方はしていない。賛成か反対かを理由を添えて説明しさえすればよいのだから、どちらの立場にも一理ありと思っても、どちらかの立場で具体的な理由を示せばよいことになる。制限語数から考えて、理由はせいぜい1つか2つが適当であろう。

(ア) まず賛成の立場（日本語を話すべき）に立つとしたら、どのような理由が考えられるか。

①我々が英語を話す国に行けば、当然英語を話すのだから、日本に来る外国人は日本語を話すべきだ。

→ If we go to an English-speaking country, we naturally speak English. Therefore, if foreigners come to Japan, they should speak Japanese.

②母国語にもっとプライドを持って、外国人と日本語でもっとコミュニケーションをとれるようになる必要がある。

→ Japanese people need to be more proud of our native language and be able to communicate more with foreigners in Japanese.

③欧米のものがすべていいのだと思ひ込むべきではない。

→ We should not be convinced that everything from the West is best.
などが考えられる。

(イ) また反対の立場（日本語を話すべきではない）に立つのであれば、

①日本に来る外国人に合わせて英語で話すのが親切だ。

→ We should be kind enough to speak to foreigners who came to Japan in English.

②これからは草の根レベルでのコミュニケーションが日本において重要になるだろう。

→ Grass-roots communication will be very important in Japan from now on.

③グローバル化の時代において、英語は世界の情報にアクセスし、世界の人々とコミュニケーションをとる便利な道具である。

→ English is a useful tool when we access information and communicate with people in the world in the age of globalization.

④英語を使って、我々の潜在能力を日本だけでなく世界でも発揮すべきである。

→ We should display our potential in the world as well as in Japan by using English.
というようなことが考えられる。

実際に文章を構成する際には以下の3点に留意したい。

1. まず自分の立場をはっきりと宣言する。→ 賛否の提示
(本問では, I agree with this idea. か, I disagree with this idea.。)
2. 理由・根拠を述べる。→ 理由1, 理由2 (40～60語程度なら2つぐらい。)
3. 語数に余裕があればもう一度, 別の表現で自分の意見を述べて締めくくる。

【5】

解答・解説

- (1) at a distance ◆ 687
○ at a distance (from ～) 「(～から) 少し離れて」
- (2) other words ◆ 694
○ (to put it) in other words 「言い換えれば」
- (3) particular ◆ 697
○ in particular 「特に; とりわけ」
- (4) In general ◆ 698
○ in general 「一般に; 概して」
- (5) in public ◆ 699
○ in public 「人前で; 公然と」
- (6) in turn ◆ 703
○ in turn 「今度は; 同様に」
- (7) in vain ◆ 706
○ in vain 「無駄に; むなしく」
○ dissuade A from ～ 「Aに～を思い止まらせる」
- (8) out of order ◆ 707
○ out of order 「調子が悪くて; 故障して」
○通常は「公共物」に用いる。
- (9) in person ◆ 711
○ in person 「自分で; 自ら」
- (10) by accident [chance] ◆ 715
○ by accident [chance] 「たまたま」
- (11) at a loss ◆ 719
○ at a loss 「途方に暮れて」
- (12) at will ◆ 724
○ at will 「思いのままに; 自由に」
○問題文は目的語が文頭に出た形。
○この at は「自由意志の at」と呼ばれるもの。

- (13) first sight [a glance] ◆ 725
○ at [on] first sight 「一目で」
- (14) first hand ◆ 726
○ at first hand 「直接に；じかに」
- (15) my disposal ◆ 727
○ put ~ at *one's* disposal 「~を…の自由処理にまかせる」
○ この at も (12) と同じ「自由意志の at」。
- (16) as such ◆ 734
○ as such 「そういうものとして」
- (17) matter of course ◆ 735
○ as a matter of course 「当然」
- (18) your guard ◆ 739
○ on *one's* guard 「見張って」
- (19) on end ◆ 742
○ on end 「続けて；立て続けに」
- (20) for one ◆ 745
○ for one 「(I, for one, … の形で) 個人的には」
○ be to blame for ~ 「~に対して責任がある」